

渦 ^{かた}

語 ^{がた}

り

(三十二)

文・小西 一三
絵・小西 由紀子

渦船、打瀬船のこと

羽立の安田政之助さんは、大正十五年生まれ。十六歳の頃から渦に出漁し、打瀬船による漁を経験した方です。天王スカイタワー一階に展示されている四分の一の大きさの打瀬船復元に関わった一人でもある安田さんに、渦船と打瀬船についてお聞きしました。

帆は船と同じ長さ、二十二反の帆を使ったな

渦船保存会に頼まれて、あの船作りに参加したのは平成十五年。若い頃に打瀬船で漁をしたっていつても、漁を止めてから随分なるし、記憶もあやふや。最初は何となるべと心配したもんだども、写真や資料を見て思い出しながら、なんとか完成させることができた。

渦船は井川町今戸の船大工、三戸浅治さん。船釘は上江川の藤原賢市さんが作った。船に使ったのは樹齢九十年ほどの天然秋田杉だった。ところで渦船に使う杉は、昔からお山（男鹿の国有林）の官木が一番いいと言われていた。内陸の山の秋田杉はどうしても、お山の官木より劣ると思うな。実際にお山の官木で作った船は長持ちしたもんだもの。

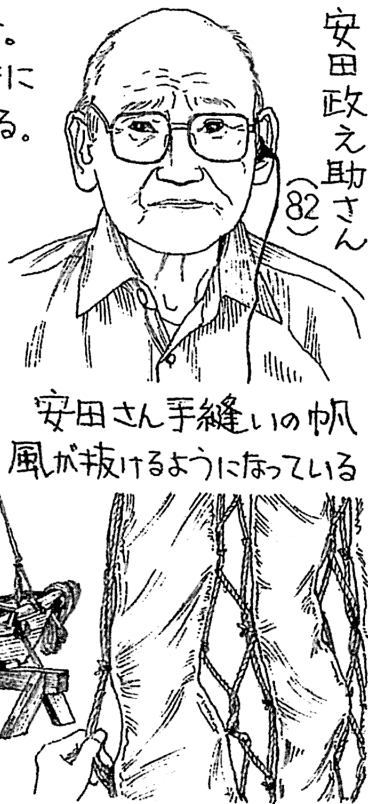
模型といっても長さは二、九六mもあるし、実際に昔と同じ木取りと組み方で作った船だよ、あれは。船大工もがんばったな。俺は主に、帆柱と帆を担当した。帆柱は孟宗竹で、帆を支えるケタは杉。忘れたかと思っても、実際に作業をしていれ

ば、何となく思い出すもんだな。

一番面倒だったのは、帆を縫う時だった。「とにかく昔とまったく同じように」ということだったので、布も昔と同じものを探してきた。天竺木綿というやつでな、糸も昔と同じ。もちろん俺が手で縫った。朝の九時から夕方の五時頃まで縫って、一日でせいぜい四反位しか縫えね。途中で頭にきて止めどくなつたども、なんとか最後まで続けたよ。二十二反分仕上げるのに、四〜五日はかかった。今だば縫い物はオナゴがするものだと思われているども、昔の漁師は針仕事も全部したもんだよ。

完成した打瀬船は、昔とまったく同じ。いい仕事に参加させてもらったと思ってるな。

安田政之助さん (82)



安田さん手縫いの帆
風が抜けるようになっている

1/4スケールの打瀬船。
天王スカイタワーの1階に
展示されている。

